

2022年度 第1クォーター・第2クォーター・春学期の授業評価を終えて

仏教学部長 林田 康順

2022年度 第1クォーター・第2クォーター・春学期の授業評価アンケート集計結果をご報告いたします。今期の回答学生の延べ人数は、24,686名を数えました(8頁)。ご協力いただいた教職員と学生の皆さんにあつく御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

2020年度・2021年度は、コロナ禍により、オンライン、オンライン併用のハイブリッド授業で進めましたが、2022年度からは原則として対面授業を展開することができました。オンラインの利点が多くあることも承知していますが、キャンパスに学生の元気な声が響き渡り、教室で教員と学生が直接意見を交わしながら授業を進めていく、こうした光景が、たいへんありがたいことであるとあらためて感じられる日々となりました。

そうした中、今期の授業評価アンケートの分析では、厳しい報告を受け取る結果となりました(『学生による授業評価アンケート結果分析報告 大正大学 2022 春』3頁～17頁参照)。

まずもって、「教員による授業への取り組み」(Q1、Q2、Q3、Q4、Q5、Q6)については、各項目ともに昨年春学期とほぼ同等の評価であり、大学全体としても良好な状態が続いているという報告をいただきました。

一方、「学生による取り組みと成果」(Q7、Q8、Q9)、「授業に対する満足度(学びの成果)」(Q10～Q12)、「出席率・平均学修時間」(Q13、Q14)といった学生自身の学修を基底とする設問については、ほぼすべての項目にわたって、昨年春学期を有意に下回っているという報告を受けることとなりました。とりわけ、「Q14 この授業のための事前学修・事後学修に何時間取り組みましたか」という項目は、全項目の中で最も低下幅が大きかったと報告されました。ともすると、対面授業に戻ったことで、授業内容に不明な点があっても、教室で友人に尋ねれば速やかに解決するという状況が、学生が学修に取り組む時間を短くしてしまったのかも知れません。こうしたコロナ禍の過渡期という状況を踏まえつつも、学生主体の各種評価項目(Q7～Q14)について全体的に向上することを目指して、授業に取り組む必要があることを共有させていただきます。

なお、学生からの回答率は48%でした(同17頁)。授業評価アンケートが全面オンライン実施となった2020年度以降、回答率は40%台で推移しており、この数字を着実に引き上げていく方策も大学全体として求められています。

先生方におかれましては、より良い授業の実施に向け、なお一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

合掌